

2015年度 新入社員意識調査結果

当社では、大垣共立銀行がお取引先企業の新入社員向けに開催している研修会の参加者を対象として、「新入社員の意識調査」を実施している。20回目となる今年度の調査では、例年質問している「就職する際の選択基準」や「将来就きたい地位」といった項目に加えて、「将来の住まいの場所において重視すること」や「親との同居・近居の考え方」などについてのアンケートを行い、新入社員の住まいに関する意識について調査した。

調査の概要

- (1) 調査対象: 岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県所在の企業292社の新入社員
- (2) 調査期間: 2015年3月16日～4月8日
- (3) 調査方法: 大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(1,175人)に無記名方式で実施
- (4) 有効回答者数: 1,134人(有効回答率96.5%)

回答者属性

		全体	男性	女性
有効回答者数		1,134名	625名	509名
平均年齢		21.4歳	21.6歳	21.0歳
最終学歴	高校卒業	35.6%	35.4%	36.0%
	専門学校卒業	9.3%	8.8%	10.0%
	短期大学卒業	5.4%	1.4%	10.2%
	4年制大学卒業	45.3%	48.6%	41.3%
	その他	4.3%	5.8%	2.6%
居住地	岐阜県	45.1%	44.6%	45.6%
	愛知県	42.2%	41.9%	42.6%
	三重県	2.5%	2.4%	2.6%
	滋賀県	2.1%	2.4%	1.8%
	その他	8.1%	8.6%	7.5%
業種	建築業	7.8%	10.9%	3.9%
	製造業	37.9%	43.0%	31.6%
	卸売業、小売業	16.4%	14.7%	18.5%
	医療・福祉	10.8%	6.2%	16.3%
	サービス業	7.7%	6.7%	8.8%
	その他	19.5%	18.4%	20.8%

(注) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある(以下同じ)。その他には不明を含む。

1 今年の新入社員像

(1) 就職先の選択基準

…男女とも「業種・事業内容」
「雰囲気・イメージ」重視の傾向は変わらず

「入社を決めるにあたって何を重視しましたか(3つまで選択)」と尋ねたところ、全体では、1位「業種・事業内容」(61.3%)、2位「雰囲気・イメージ」(47.1%)、3位「通勤時間」(28.8%)となった(図表1)。

今年度も「業種・事業内容」や「雰囲気・イメージ」を重視するようになってきた最近の傾向は変わらなかった。

男女別にみると、男女とも1位は「業種・事業内容」2位は「雰囲気・イメージ」となった。男性の3位は「会社の安定性」(28.2%)となった。女性では例年通り、男性に比べ「雰囲気・イメージ」(52.6%)「通勤時間」(35.2%)を重視する結果となった。

(2) 将来就きたい地位

…男性1位は「管理職志向」、
2位は「スペシャリスト志向」
女性1位は「スペシャリスト志向」、
2位は「一般社員志向」

「あなたは将来どんな地位に就きたいですか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、全体では「肩書きはなくても、特殊能力・技能のある社員(以下:スペシャリスト志向)」(39.0%)が例年と同じく1位となった(図表2)。2位も例年通り「肩書きのある社員(以下:管理職志向)」(30.7%)となった。

男女別にみると、男性では1位の「管理職志向」(44.1%)と2位の「スペシャリスト志向」(30.0%)の差が縮まった。女性は例年と同じく「スペシャリスト志向」(50.0%)が強かったが、2位の「肩書きは知らない(以下:一般社員志向)」(22.8%)の回答率も増加した。男女とも「一般社員志向」の回答率は過去最高となった。

(3) 上司・先輩との人間関係

…男女とも「ほどほど派」に

「上司・先輩との人間関係はどのように考えていますか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、全体では「義理を欠かない程度(以下:ほどほど派)」(49.6%)が「公私にわたって積極的に(以下:積極派)」(42.9%)を上回った(図表3)。

男女別にみると、男性では「積極派」(45.9%)が大きく低下し、3年ぶりに「ほどほど派」(46.6%)が上回った。

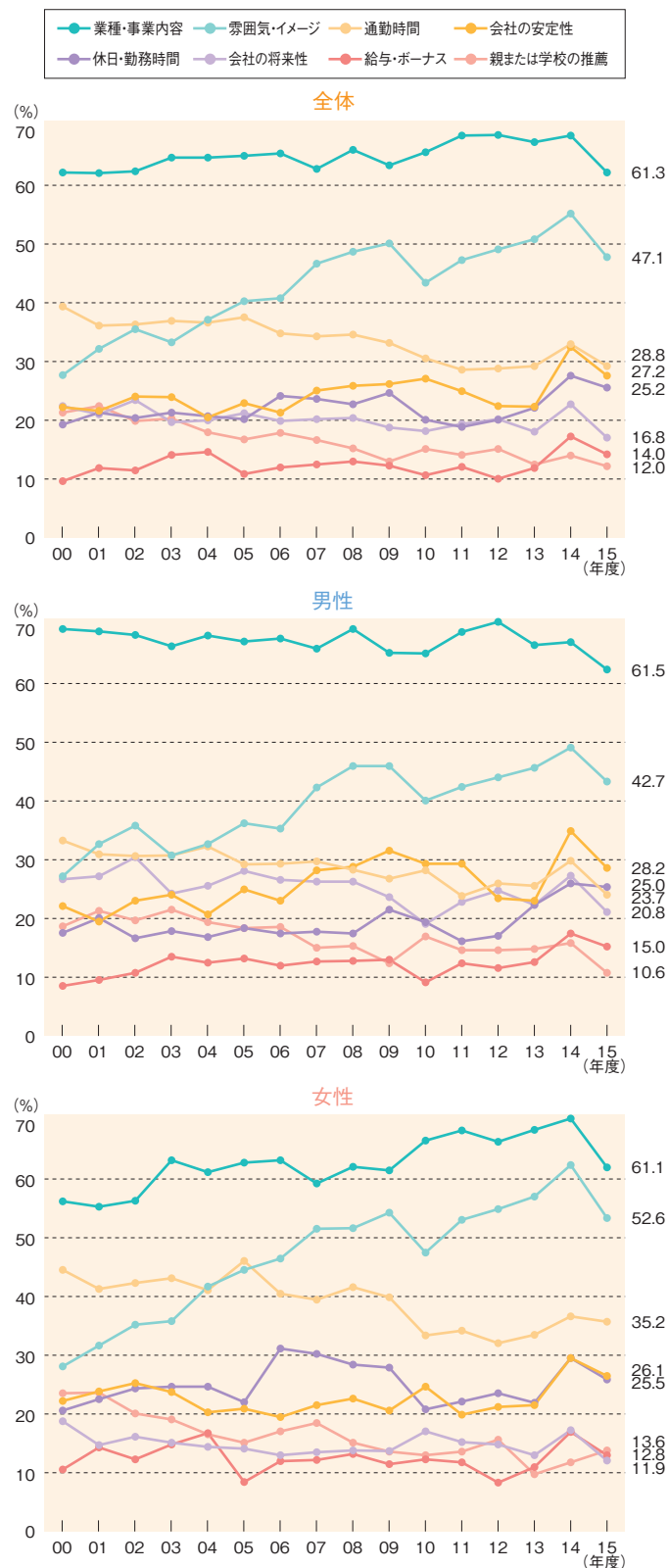
一方、女性では1位の「ほどほど派」(53.2%)が上昇し、2位の「積極派」(39.1%)が低下したことで両者の差はますます広がった。

(4) 入社の際の不安

…男女とも上位2項目は「上司・先輩との人間関係」
「業界知識・業務内容」

「入社にあたって不安に思うことは何ですか(3つまで選

図表1 就職先の選択基準(上位8項目の推移)



択)」と尋ねたところ、全体では「上司・先輩との人間関係」(62.9%)が3年連続で1位になった(図表4)。次いで「業界知識・業務内容」(58.9%)となり、3位の「社会人としてのマナー」(38.4%)が大きく低下した。

男女別にみると、男性では1位の「上司・先輩との人間関係」(61.7%)と2位の「業界知識・業務内容」(59.0%)の回答率が高い。

一方、女性では1位の「上司・先輩との人間関係」(64.3%)、2位の「業界知識・業務内容」(58.7%)は男性同様に高い回答率となった。

(5) 初給与の使い道

…「家族に感謝」が8年連続で今年度も1位

「初給与をどのように使いますか(2つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「家族に贈り物をしたり、食事をごちそうする(以下:家族に感謝)」(54.2%)、2位は「預金する」(49.4%)となった(図表5)。

男女とも1位は「家族に感謝」(男性47.6%、女性62.2%)、2位は「預金する」(男性43.8%、女性56.3%)となった。

(6) 理想の上司

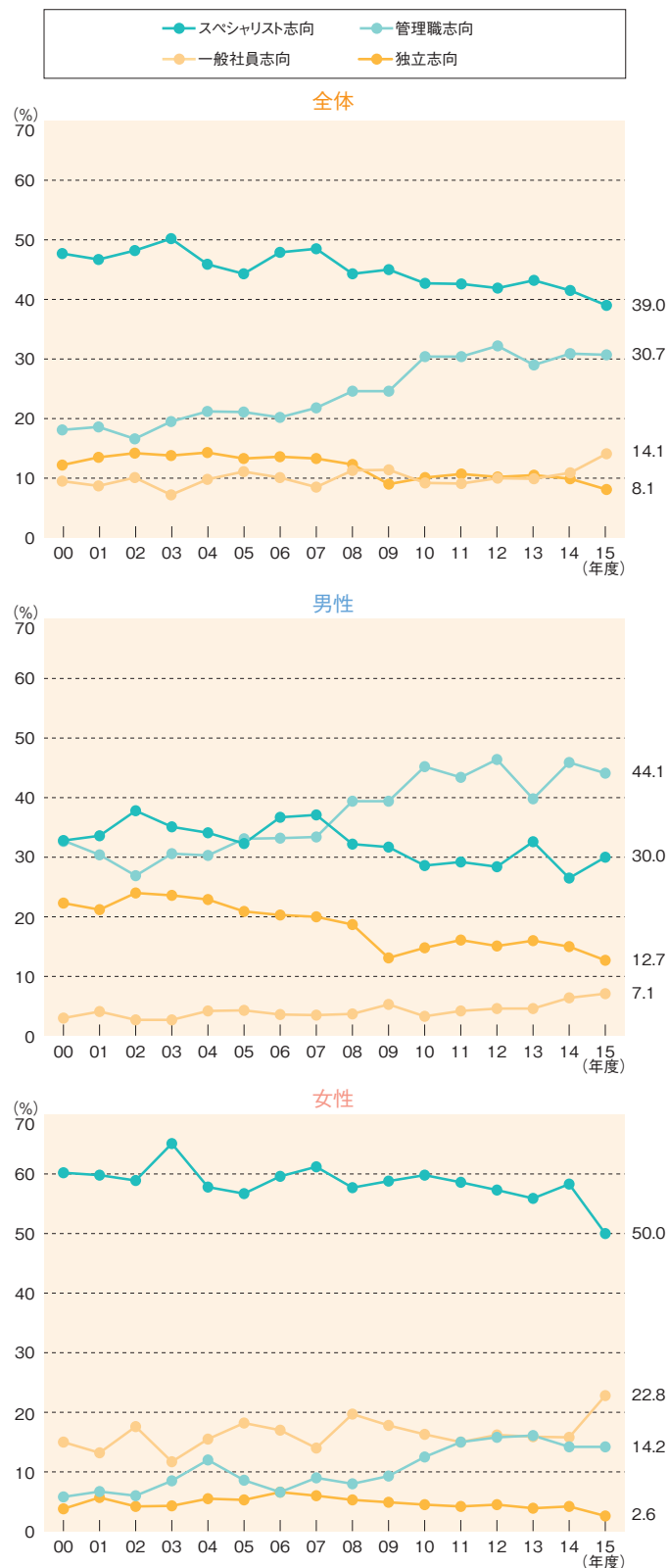
…所ジョージが4年ぶりのトップ

今年度の新入社員に、「あなたの理想の上司とはどんなタイプですか(自由回答)」と尋ねたところ、男性新入社員、女性新入社員の双方から安定的な支持を得た「所ジョージ」が4年ぶりに全体でトップとなり、1997年に理想の上司に関する調査を開始して以降、12回目のトップの座に輝いた(図表6)。

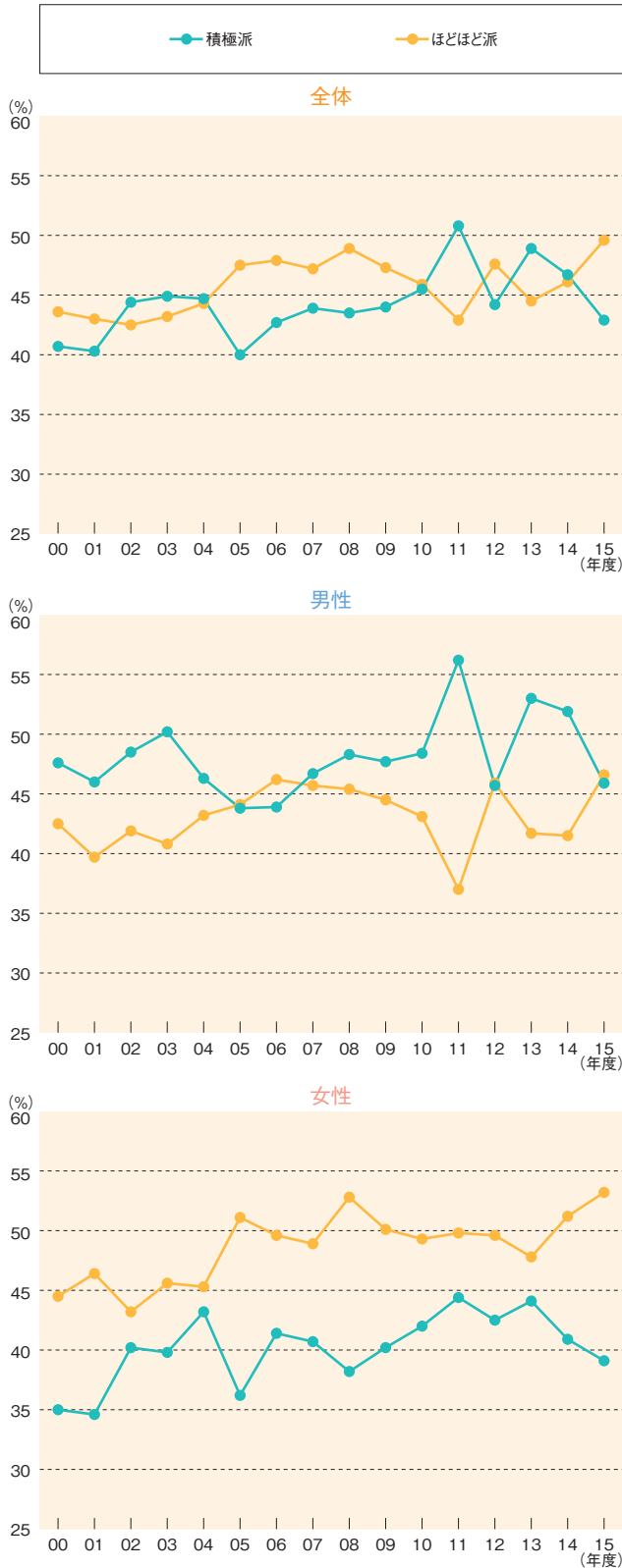
全体ランキングでトップの所ジョージは、複数の冠番組やCM出演での活躍の一方で、数多くの趣味を持ち、家族との時間を大切にするなど、ワーク・ライフ・バランスを保ち、人生を楽しんでいる姿が理想的な上司像として支持されたようだ。

男女別ランキングでは、男性のトップ3はイチロー・所ジョージ(同率1位)、明石家さんま、女性のトップ3は天海祐希、真矢

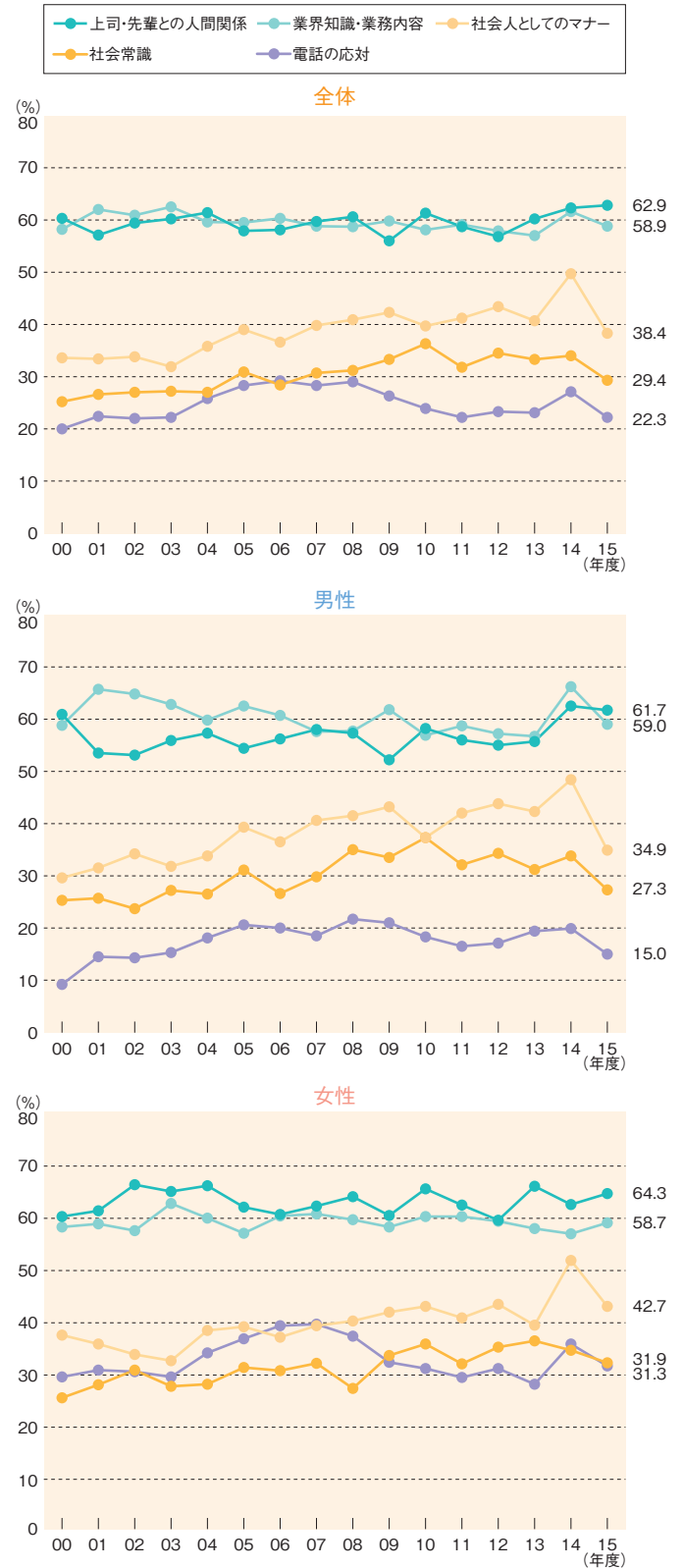
図表2 将来就きたい地位(わからない、その他を除いた項目の推移)



図表3 上司・先輩との人間関係(上位2項目の推移)



図表4 入社の際の不安(上位5項目の推移)



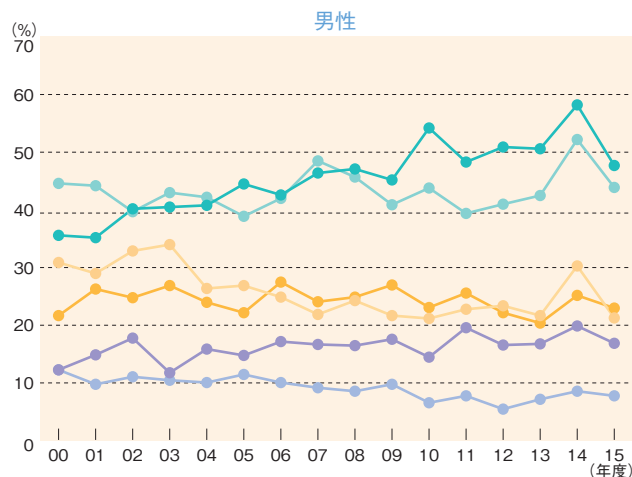
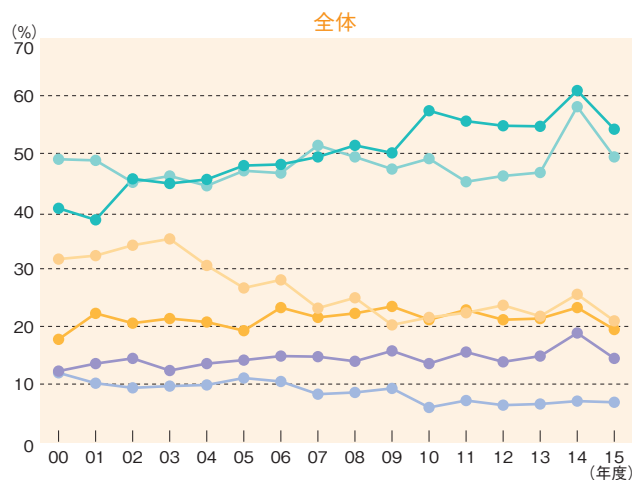
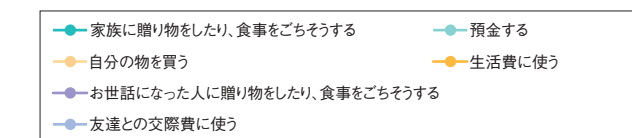
ミキ、所ジョージと結果が分かれた。全体ランキングのトップである所ジョージは、男性1位、女性3位と双方から支持を得た。

女性のランキングには同性である女性上司を理想とする回答がある一方で、男性のランキングでは女性上司の名前は挙がっておらず、女性上司の受け入れは広まっていないことがうかがえる。

(7) 小括

男性は将来就きたい地位として「管理職志向」がトップであり、就職先の選択基準の3位に「会社の安定性」が入る

図表5 初給与の使い道(上位6項目の推移)



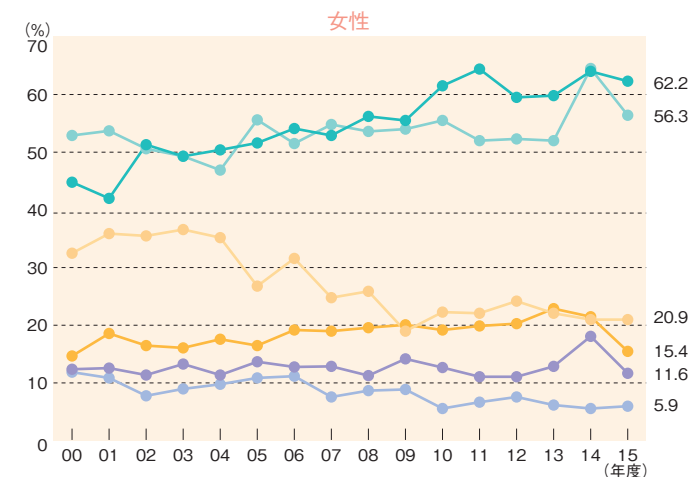
など、安定性を重視する傾向がみられる。一方、女性では、回答率は低下したものの依然として「スペシャリスト志向」が多数を占めている。回答率としてはまだ低いが、近年、男女とも「一般社員志向」が増加傾向にある。肩書きにこだわらない、自分らしい働き方を志向する傾向もみとれる。

上司・先輩との人間関係では男女とも「ほどほど派」が大きく上昇する一方で「積極派」が大きく低下しており、会社と一定の距離を置こうとする傾向がみとれる。

2 新入社員の将来の住まいに関する意識

昨年5月の日本創成会議による「消滅可能性都市」への言及に端を発し、東京一極集中と人口減少問題に改めてスポットが当たっている。政府は、その対策として「地方創生」をテーマとして設定し、昨年末に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、各地域がそれぞれの特徴を活かし、魅力的な「地方」を創生することを目指している。国の総合戦略では、「地方への新しいひとの流れをつくる」を基本目標の一つに掲げ、若年層のU・I・Jターンを促進しようとしている。

今回の調査では、若年層の地方回帰を促すには何が必要かを知るために、若年層がそれぞれのライフステージの住まいについて重視する点や住宅購入のタイミングの一つである子どもの幼少期における親との同居・近居の考え方など、新入社員の将来の住まいに関する考え方を調査した。



(1) 将来の住まいの場所において重視すること

…すべての時期で買物の利便性を重視
子どもの幼少期は子育て支援を重視

ライフステージの各段階において住まいの場所に求めるものは異なってくる。そこで、新入社員に対し、独身、夫婦二人、子供の幼少期など将来のそれぞれの時期における住まいの場所として重視する点について、主なものを3つまで選んでもらい、ライフステージ別男女別に重要視する項目を集計した(図表7、8)。

A. 現在(独身) ※カッコ内は想定するイメージ

重視する項目の順位を見てみると、男女ともトップは「職場」に近いこと、次いで「買物の利便性」「公共交通」の利便性となった。

それぞれの項目で重視する割合の男女差を見てみると、

男性が「余暇施設」や「友達の家」があることをより重視するのに比べ、女性は「公共交通」の利便性や「自分の実家」の近くをより重視する傾向がみられた。

B. 結婚直後(夫婦二人)

男女ともトップは「買物の利便性」、次いで「職場」に近いこと、「公共交通」の利便性となった。

男性が「職場」に近いことや「余暇施設」をより重視するのに比べ、女性は「公共交通」の利便性や「自分の実家」の近くをより重視する傾向がみられた。

C. 子育て中(子どもの幼少期)

男女ともトップは「子育て支援」、次いで「買物の利便性」となった。3番目は男性が「職場」に近いこと、女性が「医療体制」の充実となった。

男性が「職場」に近いことや「土地建物」が安く広い家に住めること、「結婚相手の実家」「教育環境」をより

図表6 理想の上司

(敬称略)

	順位	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
全体	1	イチロー	所ジョージ	所ジョージ	天海祐希	天海祐希	タモリ	所ジョージ
	2	島田紳助	島田紳助	島田紳助	所ジョージ	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま
	3	所ジョージ	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま	イチロー	天海祐希	イチロー
	4	タモリ	イチロー	イチロー	イチロー	所ジョージ	イチロー	天海祐希
	5	明石家さんま	タモリ	池上彰	タモリ	北野武	堺雅人	松岡修造
	6	原辰徳	北野武	天海祐希	池上彰	タモリ	所ジョージ	池上彰
	7	北野武	関根勤	関根勤	真矢みき	池上彰	松岡修造	池上彰
	8	真矢みき	真矢みき	武田鉄矢	北野武	松岡修造	真矢みき	北野武
	9	篠原涼子	原辰徳	北野武	江角マキコ	真矢みき	江角マキコ、北野武、篠原涼子	堺雅人
	10	天海祐希	天海祐希	真矢みき	高田純次	江角マキコ		松本人志
男性新入社員	1	イチロー	所ジョージ	イチロー	イチロー	イチロー	タモリ	イチロー
	2	島田紳助	イチロー	所ジョージ	所ジョージ	明石家さんま	イチロー	所ジョージ
	3	所ジョージ	島田紳助	明石家さんま	明石家さんま	所ジョージ	明石家さんま	明石家さんま
	4	タモリ	明石家さんま	島田紳助	北野武	北野武	所ジョージ	松岡修造
	5	北野武	タモリ	池上彰	高田純次	タモリ	北野武	池上彰
	6	原辰徳	北野武	北野武	タモリ	松岡修造	堺雅人	タモリ
	7	明石家さんま	原辰徳	武田鉄矢	上田晋也	池上彰	松岡修造	松本人志
	8	星野仙一	関根勤	関根勤	阿部寛	落合博満	坂上忍	北野武
	9	松本人志	星野仙一	タモリ	長谷部誠	松本人志	福山雅治	堺雅人
	10	落合博満、高田純次、みのもんた	大泉洋	星野仙一	池上彰、みのもんた	水谷豊	松本人志	関根勤
女性新入社員	1	島田紳助	島田紳助	天海祐希	天海祐希	天海祐希	タモリ	天海祐希
	2	所ジョージ	明石家さんま	真矢みき	真矢みき	明石家さんま	天海祐希	真矢みき
	3	タモリ	所ジョージ	島田紳助	所ジョージ	真矢みき	明石家さんま	所ジョージ
	4	イチロー	真矢みき	所ジョージ	明石家さんま	江角マキコ	真矢みき	タモリ
	5	明石家さんま	天海祐希	篠原涼子	池上彰	所ジョージ	堺雅人	明石家さんま
	6	真矢みき	タモリ	明石家さんま	江角マキコ	櫻井翔	篠原涼子	マツコデラックス
	7	篠原涼子	黒木瞳	関根勤	タモリ	池上彰	江角マキコ	関根勤
	8	天海祐希	関根勤	館ひろし	篠原涼子	篠原涼子	櫻井翔	堺雅人
	9	久本雅美	武田鉄矢	池上彰	イチロー	菅野美穂	EXILE HIRO、館ひろし	櫻井翔
	10	ベッキー	ベッキー	タモリ、ベッキー	ベッキー	松岡修造	ベッキー	関根勤

(注) 網掛けは2015年度全体で回答率が高かった上位3位までの人。

重視するのに比べ、女性は「子育て支援」や「買物の利便性」「医療体制」の充実、「自分の実家」をより重視する傾向がみられた。

D. 子育て終了後(子どもが成人)

男性のトップは「職場」に近いこと、女性のトップは「買物の利便性」となった。次いで男性は「買物の利便性」「医療体制」の充実、女性は「公共交通」の利便性、「医療体制」の充実となった。

男性が「職場」に近いことや「土地建物」が安く広い家に住めること、「自然環境」をより重視するのに比べ、女性は「買物の利便性」や「公共交通」の利便性をより重視する傾向がみられた。

E. 老後(定年後)

男女ともトップは「老後の安心」、次いで「医療体制」の充実、「買物の利便性」となった。

上位5項目に男女の違いは見られなかった。

(2) 子どもの幼少期における親との同居・近居の考え方

…希望は車で30分以内

男女とも同居には抵抗感強い

(1)の結果によれば、子どもの幼少期においては、子育てのしやすさが居住の選択において重要視されている。行政の子育て支援策も重要であるが、身内が近くにいれば急な用事ができた時や子どもが病気になった時の看病など、子育ての協力を得ることができる。一方、子育てに関する考え方の違いなどから、身内が近くにいることが逆にストレスに感じるといったこともある。そこで、子どもの幼少期における親(実親・義親)との同居や近居^(注)(徒歩で10分以内、車で30分以内)の考え方について尋ね、「強く希望する」から「かなり抵抗がある」までの5段階で回答を得た。

回答割合を「強く希望する」と「かなり抵抗がある」について2倍にウェイトづけして指数化し、「希望する」と「抵抗がある」の差を出し、図表化した(図表9)。差がプラスであれば「希望する」、マイナスであれば「抵抗がある」ことが示されている。ヨコ軸が男性、タテ軸が女性である。男

図表7 住まいの場所として重視する項目(順位)

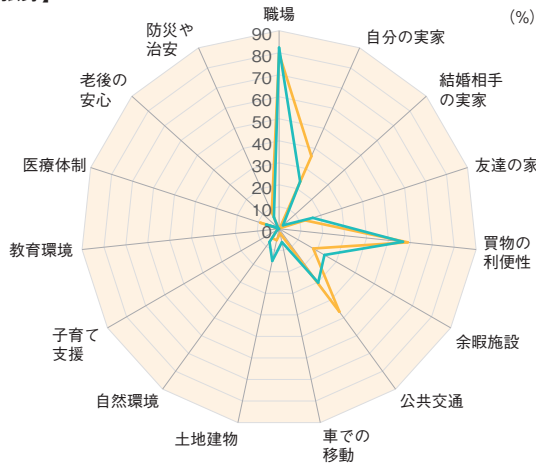
	独身		夫婦二人		子どもの幼少期		子どもが成人		定年後	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1位	職場	職場	買物の利便性	買物の利便性	子育て支援	子育て支援	職場	買物の利便性	老後の安心	老後の安心
2位	買物の利便性	買物の利便性	職場	職場	買物の利便性	買物の利便性	買物の利便性	公共交通	医療体制	医療体制
3位	公共交通	公共交通	公共交通	公共交通	職場	職場	医療体制	医療体制	買物の利便性	買物の利便性
4位	余暇施設	自分の実家	土地建物	自分の実家	医療体制	自分の実家	自然環境	職場	自然環境	自然環境
5位	自分の実家	余暇施設	余暇施設	土地建物	自然環境	自然環境	土地建物	防災や治安	防災や治安	防災や治安
6位	友達の家	友達の家	結婚相手の実家	余暇施設	土地建物	職場	余暇施設	余暇施設	土地建物	公共交通
7位	土地建物	医療体制	医療体制	医療体制	公共交通	公共交通	公共交通	土地建物	余暇施設	土地建物
8位	自然環境	防災や治安	防災や治安	防災や治安	防災や治安	防災や治安	防災や治安	自然環境	公共交通	余暇施設
9位	車での移動	土地建物	自分の実家	結婚相手の実家	自分の実家	土地建物	自分の実家	自分の実家	職場	自分の実家
10位	医療体制	自然環境	自然環境	自然環境	余暇施設	余暇施設	車での移動	友達の家	自分の実家	友達の家
11位	防災や治安	車での移動	子育て支援	車での移動	結婚相手の実家	結婚相手の実家	老後の安心	老後の安心	友達の家	職場
12位	結婚相手の実家	子育て支援	車での移動	子育て支援	教育環境	教育環境	友達の家	結婚相手の実家	結婚相手の実家	結婚相手の実家
13位	子育て支援	結婚相手の実家	友達の家	友達の家	車での移動	友達の家	結婚相手の実家	車での移動	車での移動	車での移動
14位	老後の安心	老後の安心	教育環境	老後の安心	友達の家	車での移動	子育て支援	教育環境	子育て支援	教育環境
15位	教育環境	教育環境	老後の安心	教育環境	老後の安心	老後の安心	教育環境	子育て支援	教育環境	子育て支援

(表記)	(質問項目)	(表記)	(質問項目)
職場	職場に近いこと	土地建物	土地建物が安く広い家に住めること
自分の実家	自分の実家に近いこと	自然環境	山や川などの自然や緑豊かな公園が近くにあること
結婚相手の実家	結婚相手の実家に近いこと	子育て支援	子育て支援(医療費や保育費の補助)が充実していること
友達の家	友達の家があること	教育環境	レベルの高い学校がある等教育環境が充実していること
買物の利便性	日常の買い物場所(コンビニやスーパー等)が近いこと	医療体制	病院が近い等医療体制が充実していること
余暇施設	余暇を過ごす場所(映画館や遊戯施設等)が近いこと	老後の安心	福祉施設が近い等高齢でも安心して暮らせること
公共交通	駅の近く等公共交通での移動が便利なこと	防災や治安	防災や治安面の対策に優れ安心して暮らせること
車での移動	インターチェンジの近く等車での移動が便利なこと		

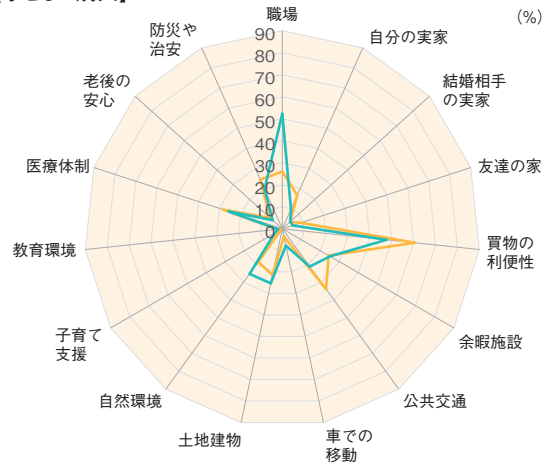
図表8 住まいの場所として重視する項目

— 男性 — 女性

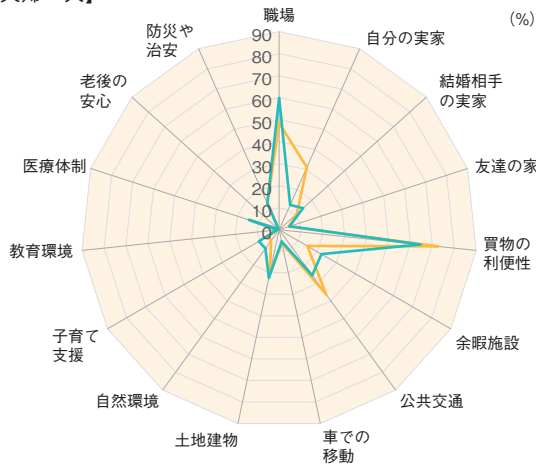
【独身】



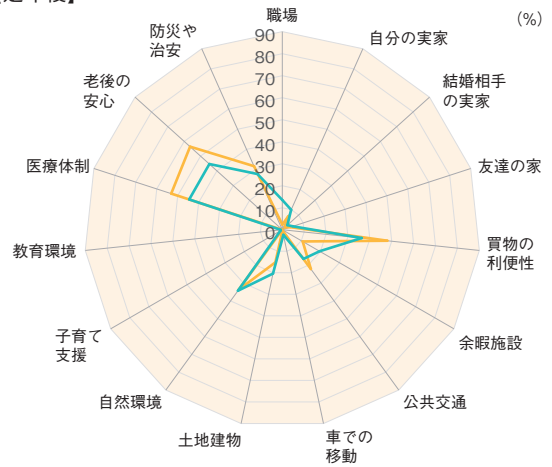
【子どもが成人】



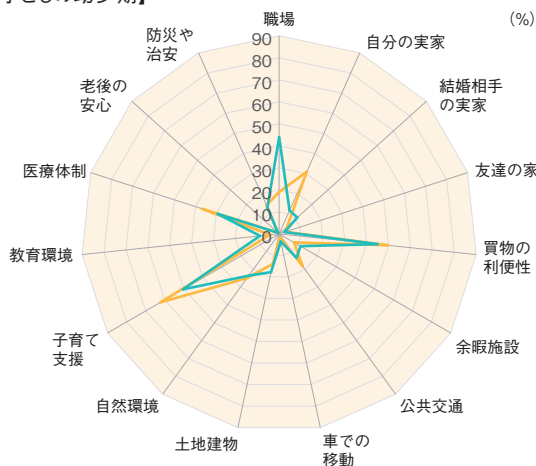
【夫婦二人】



【定年後】



【子どもの幼少期】



女ともプラスとなったのは、「女性の親との近居(車で30分以内)」「男性の親との近居(車で30分以内)」だった。特に女性は自分の親との近居(車で30分以内)を強く希望しているとの結果となった。また、男女とも同居(実親・義親)については抵抗感が強いことがうかがえる。

(注)「近居」の正確な定義はなく、同一小学校区内、徒歩10分～車・電車で1時間など、調査によりまちまちである。今回の調査では便宜的に「徒歩で10分以内」「車で30分以内」とした。

(3) 近居のイメージ時間

…平均24.8分(男性26.7分、女性22.4分)

(2)では、同居には抵抗があるが、近居にはメリットを感じ希望する人は多くみられるとの結果が得られた。では、実際「近居」とはどれくらい離れた距離や時間をイメージしているのだろうか。そこで、車で1kmを1分として、「近居」のイメージする時間を尋ねた(図表10)。

男女とも10分台とする回答が最も多く、8割以上が近居のイメージ時間は車で30分台までと回答した。

平均時間をみると、全体では車で24.8分、男性は26.7分、女性は22.4分となった。また、岐阜県では23.9分(男性25.9分、女性21.5分)、愛知県では25.3分(男性26.5分、女性23.9分)となった。

全体的に男性より女性の方が、また、愛知県より岐阜県の方が、より短い時間をイメージする結果となった。

(4) 子どもの幼少期に住みたい家

…新築派が65.6%、中古派は12.4%

日本では新築重視の住宅政策が採られてきたこともあり、日本人は新築志向が強いと言われている。一方で、最近は価格の安い中古物件を購入し、自分好みに改修するリノベーションの話題も耳にするようになってきている。そこで、住宅を購入する時期の一つの山である子どもの幼少期に住む家の考え方を尋ねた(図表11)。

全体では新築派(絶対新築+できれば新築)が65.6%と多数を占めた。中古派(どちらかという中古+お得な中古

がいい)は12.4%、賃貸派は4.9%となった。

県別にみても、全体的に新築志向が読み取れるが、愛知県の男性について、新築派が59.4%と他のカテゴリーよりも割合が少なく、特にこだわらない(20.3%)や中古派(16.0%)も他のカテゴリーに比べて高くなった。

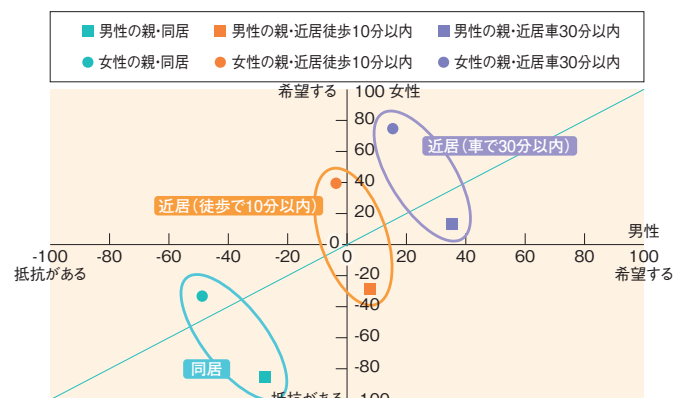
(5) 小括

住まいの場所については、すべての時期において「買物の利便性」が重視された。また、在職中(独身～子どもが成人)においては「職場」への近さも重視されていた。

男女とも同じような傾向が見られたが、女性において、子どもの幼少期までは「自分の実家の近く」を男性より重視する傾向がうかがえた。

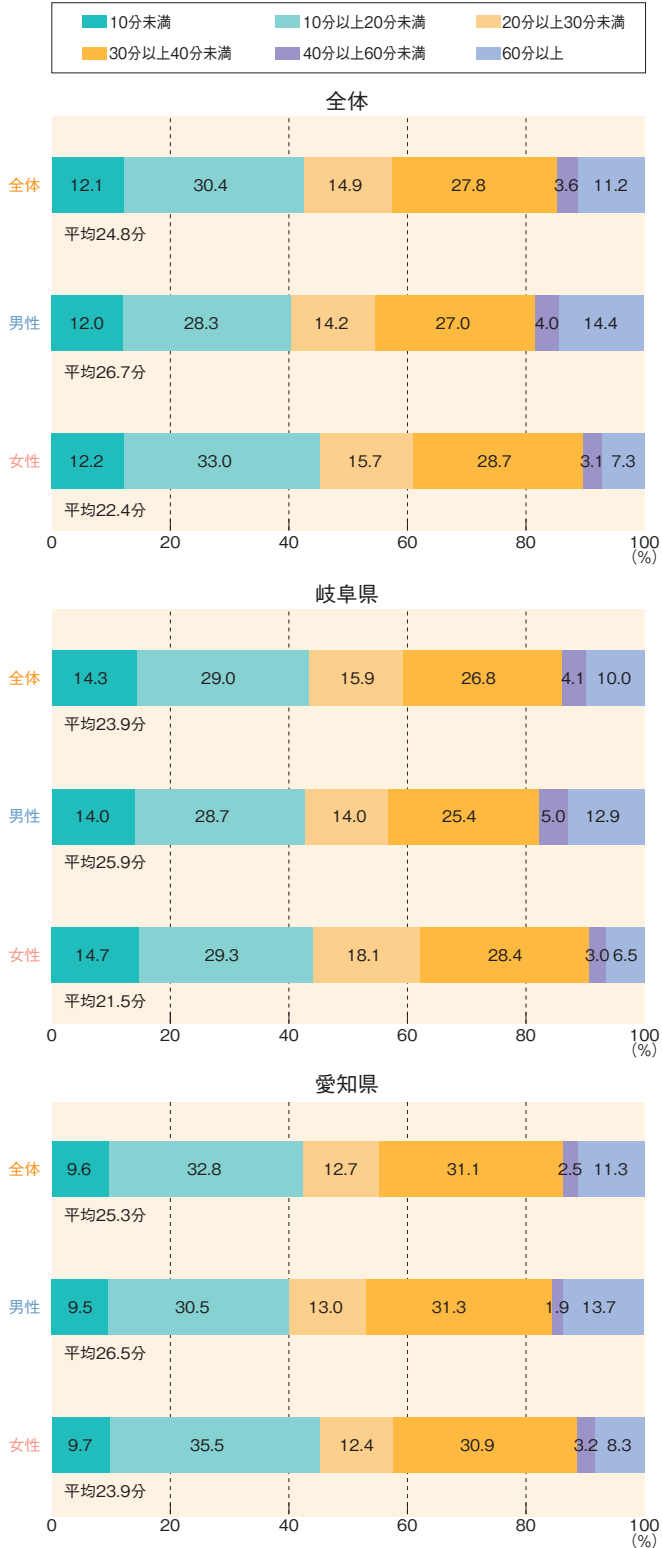
子どもの幼少期については「子育て支援」が住まいの場所として重視する項目のトップとなったように、子育てのしやすさが居住地選択における重要な要素の一つとなる。子どもの幼少期における親(実親・義親)との同居や近居については、男女とも車で30分以内の近居を希望する傾向がみられた。「みそ汁のさめない距離がよい」ともいわれるように、親(実親・義親)の家の近くに居住することは、保育園・幼稚園や習い事などの送り迎えや病気になったときの看病などの子育ての協力を得ることができる。ただ、同居に関しては、抵抗感を持つ若者も多かった。近居のイメージ時間も車で25分程度であった。子どもの幼少期に住む家としては、やはり新築を望む傾向が強くみられた。

図表9 子どもの幼少期における親との同居・近居の考え方

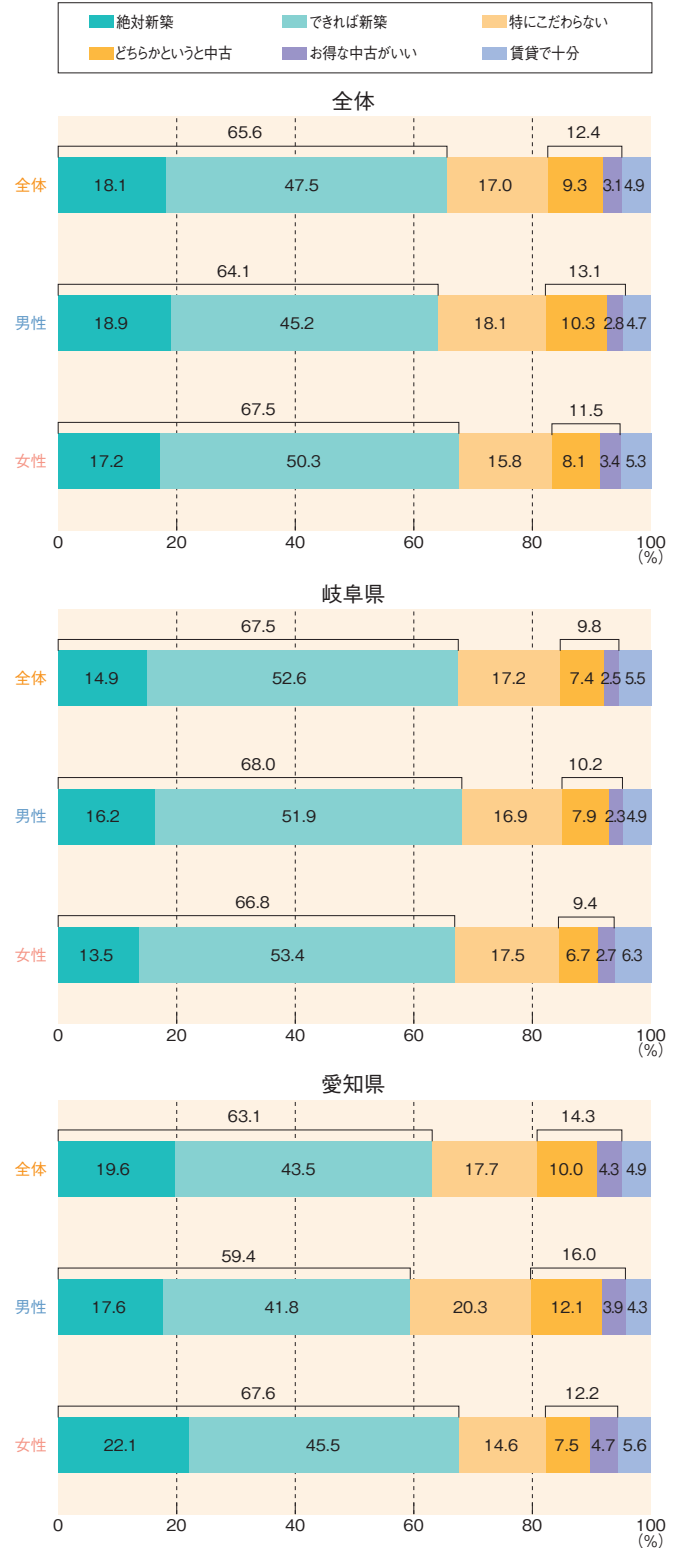


(注)「強く希望する」と「かなり抵抗がある」を2倍にウェイトづけ(強く希望する×2+できれば希望する)－(少し抵抗がある+かなり抵抗がある×2)

図表10 近居のイメージ時間



図表11 子どもの幼少期に住みたい家



(2015.5.20) OKB総研 調査部 渡邊 剛
中島 奈美